業務システム向け FAXサーバーソフト　スターファクス サーバー エスディーケー

STARFAX® Server SDK

ファイル de ＦＡＸ

おことわり

・本書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載あるいは複製することは、法令に別段の定めがある場合を除き、固く禁じられています。

・本書の内容は、本製品の改良のため、将来予告なく変更することがあります。

・本書の内容については万全を期して制作しておりますが、万一わかりにくい点や記載漏れなどお気付きの点がございましたら、メガソフト株式会社サポートセンターまでご連絡ください（本書の内容と現実が異なるときは、現実が本書に優先します）。

・本製品を使用したことによるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、当社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

・本製品をご使用になるには、製品パッケージ同梱の「ソフトウェア使用許諾条項」にご同意いただくことが必要です。

商標について

・STARFAX はメガソフト株式会社の登録商標です。

・その他、製品名等は一般に各社の商標または登録商標です。

はじめに

STARFAX Server SDK のファイル de FAX で開発を行う上で必要なファイルの書き方や保存場所などについて解説しています。
ファイル de FAX を使用した開発を行うときにご利用ください。

STARFAX Server SDK に収録しているマニュアル一覧

・セットアップマニュアル

STARFAX Server SDK のセットアップ、環境設定や各種機能について説明しています。
STARFAX Server SDK をご使用の前に必ずご一読ください。

・ファイル de ＦＡＸ（本書）

STARFAX Server SDK の FAX 送受信は、STARFAX Server SDK が定めた書式のファイルを所定のフォルダに作成することで行ない、この仕組みを「ファイル de ＦＡＸ」といいます。
「ファイル de ＦＡＸ」で使用する各種ファイルの書式や、ファイルの取り扱いについて説明しています。

・VB（Visual Basic）開発向けマニュアル

Visual Basic を開発ツールとして、STARFAX Server SDK を利用するプログラムの作成の際には、以下のマニュアルをご参照ください。

- VB 開発向け OCX プログラミングマニュアル
- VB 開発向け OCX リファレンスマニュアル
- VB 開発向け プリンタドライバとビューア プログラミング＆リファレンスマニュアル
- VB 開発向け クライアント送信プログラミングマニュアル

・VC（Visual C++）開発向けマニュアル

Visual C++ を開発ツールとして、STARFAX Server SDK を利用するプログラムの作成の際には、以下のマニュアルをご参照ください。

- VC 開発向け プログラミングマニュアル
- VC 開発向け プリンタドライバとビューア プログラミング＆リファレンスマニュアル
- VC 開発向けクライアント送信　プログラミングマニュアル

マニュアルでの表記

メニュー・設定項目などの表記

表記例	説　明
「メニュー名」 「フォルダ名」 「ファイル名」	メニュー名やファイル名、フォルダ名は「」で囲んであります。
[OK] [キャンセル]	ボタン名は [] で囲んであります。
①②③…	操作手順の順番を表します。

本書で使用するアイコン

アイコン	説　明
メモ	使用上の補足事項を説明しています。
	関連情報が掲載されているページを示しています。 マニュアル名がない場合は、本書内のページです。
注意	使用にあたっての注意点を記載しています。

ご使用になる前に

ファイル de FAX を使った開発を行う前に、STARFAX Server SDK のセットアップや基本設定を行う必要があります。
はじめに、以下の点をご確認ください。

[1]STARFAX Server SDK の準備

動作環境を確認する

STARFAX Server SDK をインストールするパソコンの動作環境をご確認ください。
特に対応 OS 以外では、インストールができても正常に動作しない場合があります。
「セットアップマニュアル」P5「ご利用前にご確認いただくこと」

STARFAX Server SDK のセットアップ

STARFAX Server SDK 本体のプログラムをセットアップします。
「セットアップマニュアル」P9「セットアップする」

[2]STARFAX Server SDK の設定

STARFAX Server SDK の基本設定を行う

FAX の送受信を実際に行うためには、STARFAX Server SDK の基本設定を行い、サービスを開始します。
「セットアップマニュアル」P16「FAX モデムと、送受信のための設定」
「セットアップマニュアル」P21「STARFAX Server SDK のサービスを開始 / 停止する」

FAX を送信する

STARFAX Server SDK で FAX 送信をするには、相手先に送信する「送付状」または「FAX 原稿」と、送信先の情報と送信するファイルの場所を記した「送信命令ファイル」を作成し、所定のフォルダに保存します。

送付状を作成する

送付状とは、FAX を送信するときに相手先の情報、枚数といった概要を記載した FAX の「表紙」にあたります。
送付状の中で、相手先の情報を送付状の中に差し込むことができます。
差し込みたい場所に差し込みたい内容のコードを書き込むことで、STARFAX Server SDK が送信命令ファイルの [Send%d] セクションを参照し、相手先の会社名や氏名を自動的に反映します。
「送信命令ファイルを作成し、FAX 送信を指示する」P6

●送付状の仕様

ファイル形式	テキスト
拡張子	.txt
フォント	フォントの種類とサイズは、送信命令ファイルの［Cover］セクションで設定します。 ※デフォルトは「MS ゴシック」フォントサイズは「10 ポイント」です。

●差し込みできる相手先情報　※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

相手先の情報	差し込み用コード	送信命令ファイルの [Send%d] ～のセクションの参照項目
会社名	%S	Company=（会社名）が展開されます。
所属名	%D	Division=（所属名）が展開されます。
役職名	%Y	Position=（役職名）が展開されます。
氏名	%N	Name=（氏名）が展開されます。
郵便番号	%Z	ZipCode=（郵便番号）が展開されます。
住所 1	%A	Address1=（住所 1）が展開されます。
住所 2	%B	Address2=（住所 2）が展開されます。
電話番号	%H	Telephone=（電話番号）が展開されます。
FAX 番号	%T	Fax=（FAX 番号）が展開されます。
敬称	%K	Title=（敬称）が展開されます。
ページ数	%P	送付状を含む、総ページ数を計算し、表示します。

▼入力例

```
--------------------------------------------------------------------------------
                    ファクシミリ送付のご案内
--------------------------------------------------------------------------------
%S
%D
%Y
%N  %K
                                                    メガソフト株式会社
                                                          目賀 柔人
  貴社、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
  下記の書類を送付いたしますので、ご査収のほど、よろしくお願い申し上げます。
                                  - 記 -

          ●発注書
                                                            以上
```

FAX 原稿を作成する

STARFAX Server SDK で送信可能なファイル形式の FAX 原稿を、ユーザーアプリケーション側で作成します。

作成された FAX 原稿が、送信可能なファイル形式でない (.PDF .docx など) 場合は、STARFAX Server SDK のプリンタドライバを使用し、送信可能なファイル形式に変換します。

> メモ
> STARFAX Server SDK のプリンタドライバを使用するには、プリンタドライバのセットアップを行ってください。
> 「セットアップマニュアル」P11「プリンタドライバのセットアップ」参照
> 使用方法は、「プリンタとビューア」マニュアルを参照

●送信可能なファイル形式一覧

- TIFF
  - -PackBits 圧縮 ※ STARFAX で主に使用している形式です
  - - 圧縮無
  - - 修正 CCITT MH 圧縮
  - -CCITT G3 MH 圧縮
  - -CCITT G3 MR 圧縮
  - -Class F
  - -G4 圧縮
  - -JPEG 圧縮
- BMP
- PCX
- DCX
- JPEG
- TXT

● FAX 原稿を作成する際の注意点

FAX は「ファイン」「スーパーファイン」「ノーマル」のいずれかの解像度で通信を行います。
そのため、作成された FAX 原稿を STARFAX Server SDK に渡すと、元の原稿の解像度によって、原稿の大きさや形が変形することがあります。
STARFAX Server SDK に FAX 原稿を渡すと内容が変形する場合は、作成した原稿の解像度を確認してください。

▼ FAX の解像度

ファイン……200dpi × 200dpi(デフォルト)
スーパーファイン…200dpi × 400dpi
ノーマル……200dpi × 100dpi

> メモ
> 「.BMP」「.TIFF」ファイルを使用する場合は以下のように変換されます
> 400dpi 以上⇒スーパーファイン (200dpi × 400dpi)
> 150dpi 以下⇒ノーマル (200dpi × 100dpi)

▼ 200dpi × 200dpi の解像度で作成した場合の原稿サイズ

この表を参考に算出してください。

原稿の用紙サイズ	横 (Pixel)	縦 (Pixel)	横 (mm)	縦 (mm)
A4	1728	2290	210	297
A4 ヘッダー無 ／ヘッダー有 内側	1728	2290	-	-
A4 ヘッダー 有 外側	1728	2329	-	-
B4	2048	2800	257	364
A3	2432	3230	297	420
A5 横向き	1728	1120	210	148
B5 横向き	2048	1376	257	182

送信命令ファイルを作成し、FAX 送信を指示する

相手先の情報や送付状、FAX 原稿のファイルの場所を書いた「送信命令ファイル」を作成し、所定のフォルダに保存すると STARFAX Server SDK が内容を確認し、FAX 送信を行います。
また、「送信命令ファイル」の「Send%d」セクションの内容が送付状に反映されます。

STARFAX Server SDK が FAX 送信を行うための「送信命令ファイル」について説明します。

●送信命令ファイルの仕様

ファイル形式	INI 形式のテキストファイル
拡張子	.WSM
ファイル名	先頭に「S」を付ける ※例：S0001.WSM　　STEST123.WSM
送信するタイミング	5 秒ごとにフォルダを確認し、送信命令ファイルがあればファイルの内容を解析して未送信ログに登録します。
エラーが発生した場合	イベントログに書き出され解析済みのファイルとして、削除されます。 解析した内容は、イベント情報で確認できます。

●送信命令ファイルと保存するフォルダ

ファイル名	保存する場所
Sxx.WSM	※お使いの OS によってフォルダ位置が異なります。 ＜ Windows 7、Vista、Server 2008 /2008 R2 ＞ C:¥Users¥Public¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥SENDMIS¥ ＜ Windows XP、Server 2003 /2003 R2 ＞ C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥SENDMIS¥

「セットアップマニュアル」P15「使用するフォルダを確認する」参照

●送信命令ファイルの書き方

送信命令ファイルは「①」～「⑤」のセクションに分かれ、セクションごとで設定できる項目が異なります。
設定したいセクション名を記入し、次の行から設定したい項目を 1 行ずつ入力します。
すべてのセクションと項目を設定する必要はなく「相手先の FAX 番号」と「送信原稿 (または送付状)」のみの設定だけで送信できます。
その他の項目は、ご利用状況に合わせて設定してください。

▼入力例：

```
[SendInfo]
Num=1
[Send1]
Fax=0600000000
[Doc]
Num=1
Name1="C:¥genko.jpg"
```

セクション名：半角 [ ] で囲みます。

項目名（Num）とその値（1）を記述します。

① 送信命令ファイルで指定した相手の数を設定します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	必須	項目名	説　明
[SendInfo]		Acount=	アカウント ※自由に利用できるエリア
	○	Num=	送信命令ファイル内で指定した相手先の数を入力します。 ※必ず設定してください。

▼入力例：2 つの相手先を指定する

```
[SendInfo]
Num=2
[Send1]
Fax=0600000000
Name= 山田太郎
[Send2]
Fax=0300000000
Name= 田中次郎
[Doc]
Num=1
Name1="C:¥genko.jpg"
```

2 箇所に送信することを宣言

メモ

「Acount=」項目を使用すると、「送信情報インデックスファイル」「未送信情報インデックスファイル」の「アカウント」項目に情報が反映されます。
「Acount=」を利用することで入力した値で「送信情報インデックスファイル」「未送信情報インデックスファイル」の情報を抽出することができます。

② 送信する相手先の情報を設定します。

※ここで設定した内容が、送付状に反映されます。※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	必須	項目名	説　明
[Send1] ※複数指定する場合は [Send2] [Send3].. と入力します。	○	Fax=	FAX 番号 *1
		Company=	会社名 *1
		Division=	所属名 *1
		Position=	役職名 *1
		Name=	氏名 *1
		Title=	敬称 *1
		Telephone=	電話番号 *1
		ZipCode=	郵便番号 *1
		Address1=	住所 1*1
		Address2=	住所 2*1
		Speed=	通信速度 0: 自動　1: 高速　2: 中速　3: 低速
		Comp=	圧縮方式 0: 自動　1:MH　2:MR　3:MMR
		Ecm=	エラー訂正 0: 自動　1: 利用する　2: 利用しない
		FCode=	Ｆコード番号 ※最大 20 バイト
		FreeArea=	ユーザーが自由に利用できるエリア *1
		Line=	送信時に使用する回線番号を指定します。 回線番号については「セットアップマニュアル」●ページ参照 ※指定がない場合は、空いている回線から送信されます。
		Priority=	優先順位　0 ～ 15　（低 0 ←優先度→ 15 高） ※指定がない場合は、「8(標準)」となります。
		Time=	FAX を送信する日時を指定して予約送信を行うときに入力します。

*1…最大 128 バイト

メモ
「Time ＝」の値は以下のとおり指定します。

YYYY MM DD HH MM SS
年　月　日 時　分 秒

▼入力例 1：1 つの相手先に送信する

```
[SendInfo]
Num=1
[Send1]
Fax=0600000000
Name= 山田太郎
[Doc]
Num=1
Name1="C:¥genko.jpg"
```

1 箇所に送信することを宣言

▼入力例 2：2 つの相手先に送信する

```
[SendInfo]
Num=2
[Send1]
Fax=0600000000
Name= 山田太郎
[Send2]
Fax=0300000000
Name= 田中次郎
[Doc]
Num=1
Name1="C:¥genko.jpg"
```

2 箇所に送信することを宣言

1 箇所目の相手先情報

2 箇所目の相手先情報

③ 送信する送付状と FAX 原稿を指定します。
相手先に送信する送付状と FAX 原稿の両方またはいずれかを指定します。

●送付状を指定する

送付状について「送付状を作成する」P4 参照

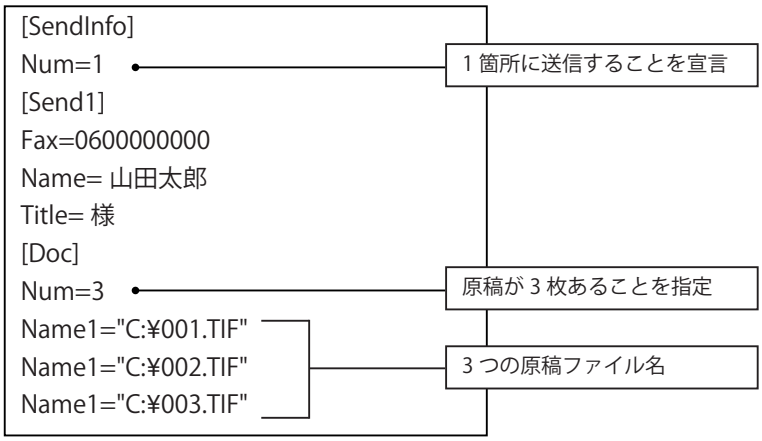
※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	項目名	説　　明
[COVER]	Name=	使用する送付状のファイルパスを「"」で囲って記入します。 ※例：Name="C:¥souhujou.txt"
	FontName=	フォントの種類を設定します。 ※指定がない場合は「MS ゴシック」です。
	FontSize=	送付状のフォントサイズを指定します。 8 ～ 72 ポイントまで ※指定がない場合は「10 ポイント」です。
	Delete=	送信命令ファイルを処理した後に送付状ファイルを削除するかを設定します。 0: 削除しない　1: 削除する ※指定がない場合は「0: 削除しない」です。
	RelPath=	送付状のファイルパスが「SENDMIS」フォルダからの「絶対パス」か「相対パス」かの設定します。 0: 絶対パス　1: 相対パス ※指定がない場合は「0: 絶対パス」です。

● FAX 原稿を指定する　※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	項目名	説　　明
[DOC]	Num=	FAX 原稿ファイルの数を入力します。 原稿ファイルが 1 つの場合「Num=1」
	Name1=	FAX 原稿のファイルパスを「"」で囲って記入します。 原稿が複数ある場合は 2 枚目を「Name2=(ファイルパス)」3 枚目を「Name3 = (ファイルパス)」と指定します。 ※例：Name1="C:¥genko.jpg"
	Delete=	送信命令ファイルを処理した後に FAX 原稿を削除するかを設定します。 0: 削除しない　1: 削除する ※指定がない場合は「0: 削除しない」です。
	RelPath=	FAX 原稿のファイルパスが「SENDMIS」フォルダからの「絶対パス」か「相対パス」かの設定します。 0: 絶対パス　1: 相対パス ※指定がない場合は「0: 絶対パス」です。

▼入力例：1 つの相手先に 3 枚の FAX 原稿を送る



④ ページヘッダーと、FAX ID を設定します。
FAX を送信するときに、各ページのヘッダー部分に記載する「ページヘッダー」をここで設定します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	必須	項目名	説　明
[User]		UserInfo=	ページヘッダー情報を記録する位置と表示する情報を指定します。 記録位置の値を指定した後に「,(カンマ)」を入れて表示する情報を続けて指定します。 記録位置：0 ⇒記録しない　1 ⇒原稿の内側に記録　2 ⇒原稿の外側に記録 表示する情報：最大 70 バイトまで ※例：UserInfo=1, 説明会のご案内 ※ FAX 原稿の余白が少ない状態で「2」を指定すると、文字の上部分が切れてしまう可能性があります。 ページヘッダー情報に相手先の情報を差し込むこともできます。 相手先の情報を差し込むには、以下の値を入力します。 会社名‥‥% S 氏名‥‥‥% N(敬称は自動で付加されます) FAX 番号‥% T
		UserID=	FAX ID(相手機に通知されます) を設定します。 「半角数字」「半角スペース」「+」を使用できます。 ※最大 20 バイトまで

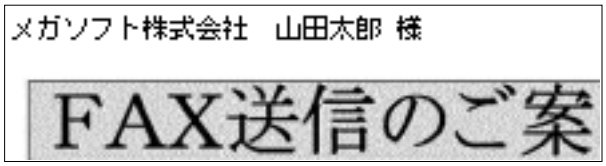
メモ
・「UserInfo=」を「1」または「2」のみ指定し、その他項目を設定しないときは日付とページ数が自動的に入力されます。
・「FAX ID」は、実際の電話番号とは異なり、FAX 機に設定される「ID」番号です。

▼入力例：ページヘッダー情報に相手先の「会社名」「氏名」「FAX 番号」を差し込む。

```
[SendInfo]
Num=1
[Send1]
Fax=0600000000
Company= メガソフト株式会社
Name= 山田太郎
[User]
UserInfo=1,%S  %N
```

「1, 」…原稿の内側に記録
%S の位置に「メガソフト株式会社」
%N の位置に「山田太郎様」を記録するように指定

⇒



⑤ 送信命令ファイルを処理した後に削除するフォルダを指定します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	必須	項目名	説　明
[DELETE]		Folder=	命令ファイル処理後、削除するフォルダを指定します。
		RelPath=	削除するフォルダのパスが「SENDMIS」フォルダからの「絶対パス」か「相対パス」かを設定します。 0: 絶対パス　1: 相対パス ※指定がない場合は「0: 絶対パス」です。

ログの取得と削除

STARFAX Server SDK は FAX 通信が終了すると、その結果情報を「ログ」として「インデックスファイル」に記録します。
FAX 原稿ファイルは「インデックスファイル」に関連付けられ、STARFAX Server SDK のフォルダに保存されます。

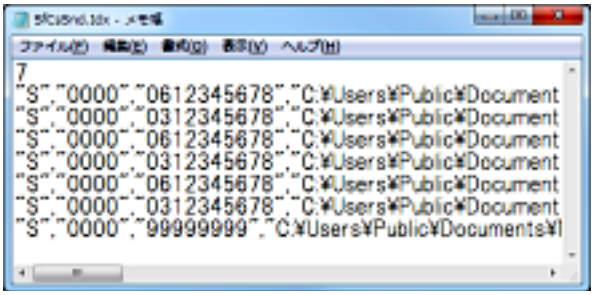
ログの一覧を取得する

送受信ログ、未送信ログのインデックスファイルについて説明します。

●インデックスファイルの仕様

ファイル形式	CSV 形式 ※ファイルの内容は、メモ帳などで開いて確認できます。
拡張子	.Idx
インデックスファイルの表記	・先頭の 1 行目にログの総件数を記載しています。 ・項目はすべて「"」で囲まれています。 ・インデックスファイルの項目内の「""」は、送信命令ファイルの「Send」セクションで「"」を使用したときに使われます。

▼表示例



●インデックスファイルの種類と保存場所

※下表の「保存する場所」の＜ OS フォルダ＞部分は、お使いの Windows により異なります。
＜ Windows 7、Vista、Server 2008 /2008 R2 ＞
C:¥Users¥Public¥Documents
＜ Windows XP、Server 2003 /2003 R2 ＞
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents

	ファイル名	ファイルの説明	保存する場所
送信ログ	SfCsSnd.Idx	送信情報 インデックスファイル	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥INFOSEND
受信ログ	SfCsRcv.Idx	受信情報 インデックスファイル	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥INFORECV
未送信ログ	SfCsQue.Idx	未送信情報 インデックスファイル	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥INFOQUE

●インデックスファイルの項目名と説明

項目名	説　　明
データ属性	「S」⇒送信ログ 「R」⇒受信ログ 「Q (送信待ち)」「E (送信中)」⇒未送信ログ
ドキュメント ID 番号	STARFAX Server SDK 内部で使用
送信先名称	**送信ログと未送信ログ** 送信命令ファイルの「Send」セクションの「Company」「Name」「Fax」の順に表示します。 「Company」の入力がなく、「Name」「Fax」の入力があれば、「Name」を表示します。 **受信ログ** 相手先の FAX ID を表示します。
原稿ファイルのパス名	原稿ファイルの保存場所が表示されます。
ＦＡＸ	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Fax=」の値。 ※受信ログにはこの項目はありません。
Ｆコード番号	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Fcode=」の値。 受信ログでは、相手先が送信の際に指定した F コードを表示
リトライ回数	FAX 送信で再送信した場合の回数 ※受信ログにはこの項目はありません。
日時	FAX 送信、受信した日時。 未送信ログでは、通常「0000..」と表示され、送信する日時を指定した「予約送信」を使用した場合に日付が入ります。 YYYYMMDDHHMMSS
通信時間	通信を開始 (オフフック) してから、終了 (オンフック) するまでの時間を表示。 YYYYMMDDHHMMSS ※ 2 分 25 秒かかった場合「00000000000225」と標示されます。
通信状況テーブル	16 ケタの半角英数で表示。 ※表示例：“FEFMAF0E　8 “ 1 桁目：STARFAX Server SDK 内部で使用 2 桁目：通信速度 2 ⇒ 2400bps　4 ⇒ 4800bps　7 ⇒ 7200bps(V.29)　9 ⇒ 9600bps(V.29) A ⇒ 7200bps(V.17)　B ⇒ 9600bps(V.17)　C ⇒ 12000bps E ⇒ 14400bps　G ⇒ 16800bps　H ⇒ 19200bps I ⇒ 21600bps　J ⇒ 24000bps　K ⇒ 26400bps L ⇒ 28800bps　M ⇒ 31200bps　N ⇒ 33600bp 3 桁目：画品質 N ⇒ノーマル　F ⇒ファイン　S ⇒スーパーファイン 4 桁目：符号化 M ⇒ MMR　R ⇒ MR　H ⇒ MH 5 桁目：用紙サイズ A ⇒ A4　B ⇒ B4　3 ⇒ A3 6 桁目：STARFAX Server SDK 内部で使用 7 桁目：STARFAX Server SDK 内部で使用 8 桁目：エラー訂正 E ⇒エラー訂正機能を利用する　D ⇒利用しない 9 桁目：未使用 10 桁目：未使用 11 桁目：送信回線指定フラグ 空白⇒送信回線指定しない　1 ⇒送信回線指定 12 桁目：送信回線指定 0 ～ ※指定がない場合は空白が入ります 13 桁目：優先順位 (0 ～ 15)
ページ数	FAX 原稿の総ページ数。
通信結果	通信した結果のコード。(0 →成功) 3 桁の数字はエラーが発生したときに表示。 ➡エラー番号の一覧と詳細は、「セットアップマニュアル」P42「通信結果の詳細」参照
回線番号	通信で使用した回線を表示。 ※回線番号は「FAX モデム設定」で設定した回線番号です。 ※回線 1 → 0　回線 2 → 1..
アカウント	送信命令ファイルの「SendInfo」セクションの「Acount=」の値を表示。

ジョブ ID	**送信ログと未送信ログ** 未送信ログに登録された時点の時刻で ID が生成されます。 **受信ログ** 受信を開始した時点の時刻で ID が生成されます。 LYYYYMMDDHHMMSSMM
送信先情報会社名	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Company=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報所属名	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Division=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報役職名	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Position=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報氏名	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Name=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報郵便番号	送信命令ファイルの「Send」セクションの「ZipCode=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報住所 1	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Address1=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報住所 2	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Address2=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報電話番号	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Telephone=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報 FAX 番号	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Fax=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報敬称	送信命令ファイルの「Send」セクションの「Title=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
送信先情報ユーザー使用	送信命令ファイルの「Send」セクションの「FreeArea=」の値を表示。 ※受信ログにはこの項目はありません。
未使用項目	
発信元情報記録位置	送信命令ファイルの「USER」セクションの「UserInfo=」の値を表示。 0 ⇒記録しない　1 ⇒原稿の内側に記録　2 ⇒原稿の外側に記録 ※受信ログにはこの項目はありません。

メモ

・ジョブ ID の表示の説明

L YYYY MM DD HH MM SS MMM

回線番号　年　月　日　時　分　秒　ミリ秒

・通信時間の表示の説明

YYYY MM DD HH MM SS

年　月　日　時　分　秒

追加されたログ情報だけを取得する

FAX 送受信した後「インデックスファイル」に追加される情報だけを抜き出し、1 つのファイルに書き出します。

●追加済通知ファイルの仕様

ファイル形式	CSV 形式 ※ファイルの内容は、メモ帳などで開いて確認できます。
拡張子	.WSM
ファイル名	**送信情報追加済通知ファイル** 先頭に「AS」を入力。 ※例：AS0001.WSM　　ASTEST0123.WSM **受信情報追加済通知ファイル** 先頭に「AR」を入力。 ※例：AR0001.WSM　　ARSEND123.WSM
作成するタイミング	送信、または受信が完了した時点で作成されます。
追加済通知ファイルの表記	・先頭の 1 行目は、「1」が固定で入力され、2 行目にインデックスファイルに追加されたログの 1 行を抜き出して表示します。 ・項目はすべて「"」で囲まれます。 ・インデックスファイルの項目内の「""」は、送信命令ファイルの「Send」セクションで「"」を使用したときに使われます
ファイルの削除	通知ファイルは自動的に作成された後、自動的に削除されることはありません。 ユーザープログラム側で参照後に必ず削除してください。

●各種通知ファイルと保存されるフォルダ

※下表の「保存する場所」の＜ OS フォルダ＞部分は、お使いの Windows により異なります。

＜ Windows 7、Vista、Server 2008 /2008 R2 ＞

C:¥Users¥Public¥Documents

＜ Windows XP、Server 2003 /2003 R2 ＞

C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents

ファイルの説明	ファイル名	保存する場所
送信情報追加済通知ファイル	ASxx.WSM	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥NOTICE¥ADDSEND
受信情報追加済通知ファイル	ARxx.WSM	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥NOTICE¥ADDRECV

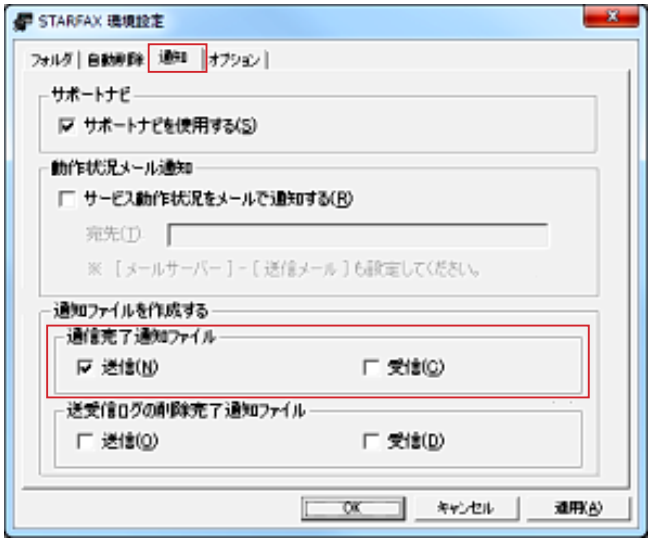
● STARFAX Server SDK の設定を行う

送信ログ、受信ログのどちらの追加情報ファイルを作成するかの設定を行います。

① STARFAX Server SDK サービスマネージャーを表示します。

② [環境設定] をクリックします。

③ 「通知」タブをひらき、「通知ファイルを作成する」で作成する通知ファイルにチェックを入れます。



ログを削除する

インデックスファイルや追加通知済みファイルからログ情報を削除するには、「削除命令ファイル」を作成し、所定のフォルダに保存することで実行されます。

●削除命令ファイルの仕様

ファイル形式	INI 形式
拡張子	.WSM
ファイル名	**・送信、受信情報** 先頭に「DR」を入力。 ※例：DR0001.WSM　　DRSEND0123.WSM **・未送信情報** 先頭に「DQ」を入力。 ※例：DQ0001.WSM　　DQSEND123.WSM
削除の対象	1 つの削除命令ファイルで、複数の削除対象を指定することができます。 現在送信中のログを指定することはできません。指定した場合、エラーとなりイベント情報に登録されます。
削除するタイミング	2 秒ごとにフォルダを確認し、削除命令ファイルがあればファイルの内容を解析して実行します。 ※その他タスクの動作待ち状態になる場合があります。
処理に失敗した場合	ログに書き出され解析済みのファイルとして、削除されます。 解析した内容は、イベント情報で確認できます。 「セットアップマニュアル」P22「ログ管理」参照

●削除命令ファイルの種類と保存場所

※下表の「保存する場所」の＜ OS フォルダ＞部分は、お使いの Windows により異なります。

＜ Windows 7、Vista、Server 2008 /2008 R2 ＞
C:¥Users¥Public¥Documents

＜ Windows XP、Server 2003 /2003 R2 ＞
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents

	ファイル名	ファイルの説明	保存する場所
送信ログの削除	DRxx.WSM	送信情報削除命令ファイル	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥INFOSEND¥DELMIS¥
受信ログの削除	DRxx.WSM	受信情報削除命令ファイル	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥INFORECV¥DELMIS¥
未送信ログの削除	DQxx.WSM	未送信情報削除命令ファイル	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥INFOQUE¥DELMIS¥

●削除命令ファイルの書き方

以下のセクションを入力します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	項目名	説　　明
[DelInfo]	Num=	このファイルで削除する対象の数を指定します。
	Name1=	削除するログを指定します。 「インデックスファイル」の「ジョブ ID」を値として入力します。 複数ある場合は、「Name2 =」「Name3=」.. と指定します。

▼入力例 1：1 件のログを削除する

```
[DelInfo]
Num=1
Name1=020121001100844123
```

削除対象は 1 つ

削除対象のジョブ ID

▼入力例 2：複数のログを削除する

```
[DelInfo]
Num=3
Name1=020121001100844123
Name2=020121100900925123
Name3=020121201000745123
```

削除対象は 3 つ

削除対象のジョブ ID

ログが削除されたことを通知する

以下のいずれかの方法によって、インデックスファイルからログ情報が削除されたときに「削除済み通知ファイル」を自動的に作成し、特定のフォルダに保存します。

・送信情報削除命令ファイルの作成
・STARFAX サービスマネージャ [環境設定]-「自動削除」タブ内「送受信ログの保存期間」の設定
・STARFAX Server SDK が停止中に、STARFAX Server SDK ログ管理プログラムで削除

●削除済通知ファイルと保存されるフォルダ

※下表の「保存する場所」の＜ OS フォルダ＞部分は、お使いの Windows により異なります。
＜ Windows 7、Vista、Server 2008 /2008 R2 ＞
C:¥Users¥Public¥Documents
＜ Windows XP、Server 2003 /2003 R2 ＞
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents

ファイルの説明	ファイル名	保存する場所
送信情報削除済み通知ファイル	DSxxxxx.WSM	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥NOTICE¥DELSEND
受信情報削除済み通知ファイル	DSxxxxx.WSM	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥NOTICE¥DELRECV

●削除済通知ファイルの仕様

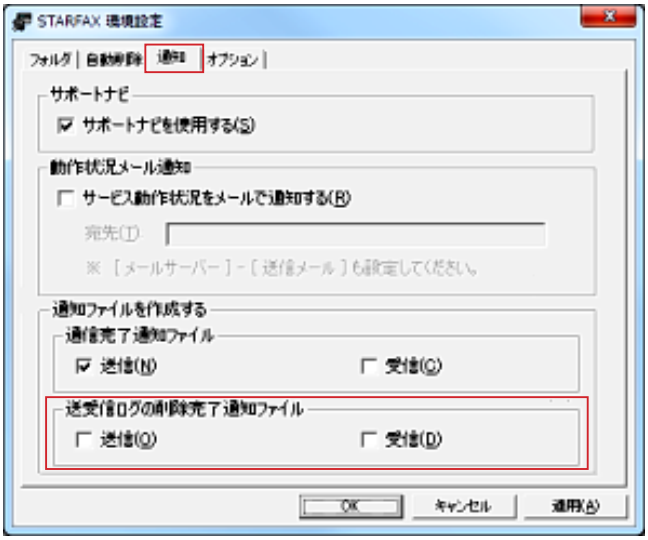
ファイル形式	INI 形式 ※ファイルの内容は、メモ帳などで開いて確認できます。
拡張子	.WSM
ファイル名	先頭に「DS」を入力

注意 通知ファイルは自動的に作成された後、自動的に削除されることはありません。ユーザープログラム側で参照後に必ず削除してください。

● STARFAX Server SDK の設定を行う

送信ログ、受信ログのどちらの追加情報ファイルを作成させるか設定を行います。

① STARFAX Server SDK サービスマネージャーを表示します。
② [環境設定] をクリックします。
③「通知」タブをひらき、「通知ファイル」で作成させたい削除済み通知ファイルにチェックを入れます。



●削除命令ファイルの内容

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	項目名	説　　明
[DelInfo]	Num=	削除したログの数を表示します。
	Name1=	削除したログのジョブ ID を表示します。 LYYYYMMDDHHMMSSMMM 複数ある場合は、「Name2 =」「Name3=」.. と指定します。

▼入力例

[DelInfo]
Num=2 ―― 削除対象は 2 つ
Name1=020120110000000000
Name2=020120110010000000
―― 削除したログのジョブ ID

注意
・ジョブ ID の表示の説明
L YYYY MM DD HH MM SS MMM
回線番号　年　月　日　時　分　秒　ミリ秒

その他オプション機能を利用する

STARFAX Server SDK には「ファイル de FAX」で簡単に指定したファイルを印刷したりメールで送信したり、原稿ファイルの JPEG 形式に変換したファイルを自動的に作成する機能があります。

指定したファイルを印刷する

「印刷命令ファイル」を使用すると、STARFAX Server SDK の「オプション」-「カレントプリンタ」で指定したプリンタに印刷できます。

●印刷命令ファイルの仕様

ファイル形式	INI 形式
拡張子	.WSM
ファイル名	先頭に「PD」を入力。 ※例：PD0001.WSM　　PDSEND0123.WSM
印刷する対象	印刷するファイルのパスを「"」で囲って記入します。 1 つの印刷命令ファイルで、複数の印刷対象を指定することができます。
印刷するタイミング	10 秒ごとにフォルダを確認し、印刷命令ファイルがあればファイルの内容を解析して実行します。 ※その他タスクの動作待ち状態になる場合があります。
処理に失敗した場合	処理に失敗した内容をイベントログに書き出します。 書き出した後、「印刷命令ファイル」を処理済みとして削除します。 ※イベントログは、「ログ管理」画面で確認できます。 ➡「セットアップマニュアル」P22「ログ管理」参照

●印刷命令ファイルと保存するフォルダ

ファイル名	ファイルの説明	保存する場所
SfCsSnd.Idx	印刷除命令ファイル	※お使いの OS によってフォルダ位置が異なります。 ＜ Windows 7、Vista、Server 2008 /2008 R2 ＞ C:¥Users¥Public¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥PRTMIS¥ ＜ Windows XP、Server 2003 /2003 R2 ＞ C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥PRTMIS¥

●使用するプリンタを設定する

印刷に使用するプリンタは、STARFAX Server SDK のサービスマネージャーから設定します。

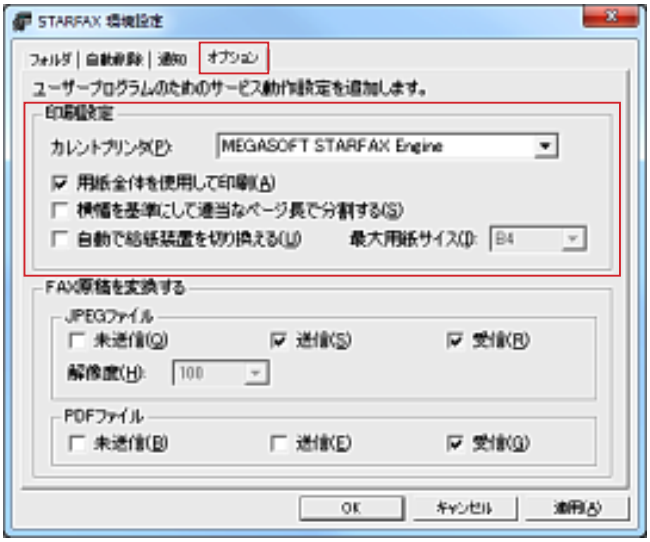
① STARFAX Server SDK サービスマネージャーを表示します。

② [環境設定] をクリックします。

③「オプション」タブをひらき、「カレントプリンタ」を選択します。

④ 以下の内容を設定します。

用紙全体を使用して印刷	プリンタ側で設定されている用紙サイズに合わせ、原稿を伸縮させて印刷します。
横幅を基準にして適当なページ長で分割する	受信原稿の 1 ページが既定の用紙サイズより長い (長尺 FAX) 原稿を、印刷する用紙サイズに合わせて分割します。
自動で給紙装置を切り替える	受信原稿の用紙サイズに合わせて印刷する用紙サイズを変更します。



●印刷命令ファイルの書き方

以下のセクションを入力します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

セクション名	項目名	説　　明
[Doc]	Num=	印刷するファイルの数を指定します。
	Name1=	印刷するファイルのフルパスを指定します。 複数ある場合は、「Name2 =」「Name3=」.. と指定します。

▼入力例１：１つのファイルを印刷する

```
[Doc]
Num=1
Name1="C:¥genko.jpg"
```

▼入力例２：３つのファイルを印刷する

```
[Doc]
Num=3
Name1="C:¥soufujyo.jpg"
Name2="C:¥genko.jpg"
Name3="C:¥tuika_genko.jpg"
```

指定したファイルをメールに添付して送信する

STARFAX Server SDK には「メール送信命令フォルダ」があります。
このフォルダにメールを送信する宛先や添付するファイルなどを指定した「メール送信命令ファイル」を保存することで自動的にメール送信を行います。

●メール送信命令ファイルの仕様

ファイル形式	INI 形式
拡張子	.WSM
ファイル名	先頭に「SD」を記入 ※例：SD0001.WSM　　SD_TEST0123.WSM
宛先	「To」と「CC」があります。
添付するファイル形式	ファイル形式に制限はありません。(FAX 原稿ファイル形式以外でも可能)
送信するタイミング	10 秒ごとにフォルダを確認し、メール送信命令ファイルがあればファイルの内容を解析して実行します。 ※その他タスクの動作待ち状態になる場合があります。
エラーが発生した場合	イベントログに書き出され解析済みのファイルとして、削除されます。 解析した内容は、イベント情報で確認できます。 「セットアップマニュアル」P22「ログ管理」参照

●メール送信命令ファイルと保存するフォルダ

ファイル名	ファイルの	保存する場所
SfCsSnd.Idx	メール送信命令ファイル	※お使いの OS によってフォルダ位置が異なります。 ＜ Windows 7 ／ Vista ／ Server 2008 ／ Server 2008 R2 ＞ C:¥Users¥Public¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥EMSMIS¥ ＜ Windows XP ／ Server 2003 ／ Server 2003 R2 ＞ C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥EMSMIS¥

●印刷命令ファイルの書き方

送信命令ファイルは「①」～「④」のセクションに分かれ、それぞれのセクションで設定できる項目がわかれています。
設定したいセクション名を記入し、次の行から設定したい項目を 1 行ずつ入力します。
全てのセクション、項目を設定する必要はありません。宛先のみ指定した場合でもメール送信することができます。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

① 宛先 (To) を指定する

セクション名	項目名	説　　明
[To]	Num=	宛先 (To) で指定するメールアドレスの数を設定します。
	Address1=	送信するメールアドレスを入力します。 複数ある場合は、「Address2 =」「Address3=」.. と指定します。

② 宛先 (Cc) を指定する

セクション名	項目名	説　　明
[Cc]	Num=	宛先 (Cc) で指定するメールアドレスの数を設定します。
	Address1=	送信するメールアドレスを入力します。 複数ある場合は、「Address2 =」「Address3=」.. と指定します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

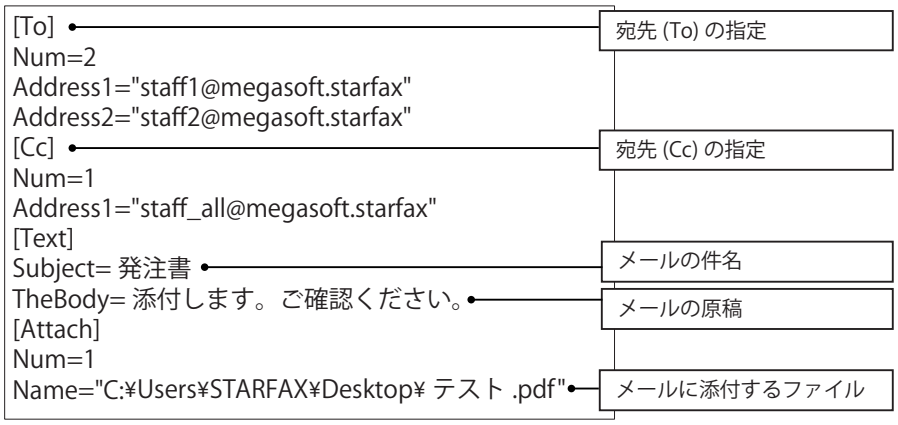
③ メールの件名と本文を指定する

セクション名	項目名	説　　明
[Text]	Subject=	メールの件名を指定します。 ※最大 1024 バイト
	TheBody=	メールの本文を指定します。 改行する場合は「\n」を改行する場所に入力します。 ※最大 4096 バイト

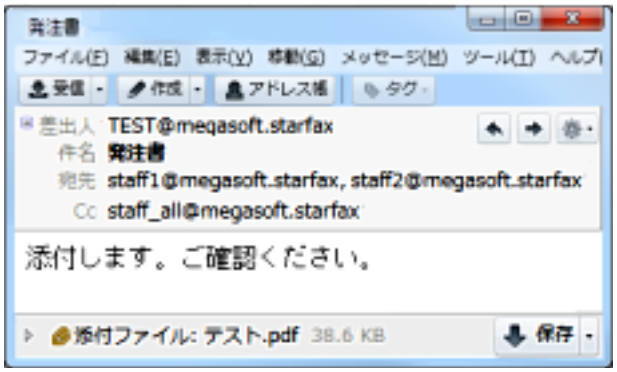
④ 添付するファイルを指定する

セクション名	項目名	説　　明
[Attach]	Num=	このメール送信命令ファイルで添付するファイルの数を指定します。
	Name1=	添付するファイルのパスを「"」で囲って入力します。 ファイルが複数ある場合は、「Name2 =」「Name3=」.. と指定します。

▼入力例：1 つのファイルを添付し、送信する



⇓



JPEG 形式の原稿ファイルを作成する

STARFAX Server SDK の FAX 原稿は、Tiff(PackBits 圧縮) 形式で保存されます。
その FAX 原稿を元に JPEG ファイルを生成し、保存することができます。

●作成される JPEG ファイルの仕様

ファイルの数	JPEG ファイルは原稿 1 ページにつき編集された 8 種類のファイルが作成されます。
ファイル名	・ファイル名の先頭のアルファベットは、編集内容を表します。 ・ファイル名のアルファベットの後に 4 桁の数字が続きます。 4 桁の数字は、FAX 原稿のページ数を表します。

●保存されるフォルダ

JPEG ファイルは、送受信した原稿ファイルが保存されるフォルダに作成されます。

※下表の「保存する場所」の＜ OS フォルダ＞部分は、お使いの Windows により異なります。
＜ Windows 7 ／ Vista ／ Server 2008 ／ Server 2008 R2 ＞
C:¥Users¥Public¥Documents
＜ Windows XP ／ Server 2003 ／ Server 2003 R2 ＞
C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents

項目	保存する場所
送信原稿	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥INFOSEND¥LYYYYMMDDHHMMSSMMM¥
受信原稿	＜ OS フォルダ＞ ¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥INFORECV¥LYYYYMMDDHHMMSSMMM¥

注意
・ジョブ ID の表示の説明
L YYYY MM DD HH MM SS MMM
回線番号　年　月　日　時　分　秒ミリ秒

●作成する JPEG ファイルの設定を行う

STARFAX Server SDK のサービスマネージャーから作成する JPEG ファイルの設定を行います。

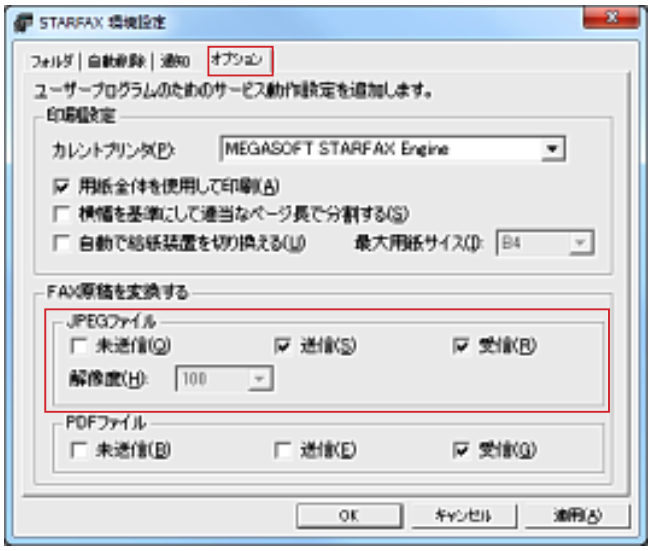
① STARFAX Server SDK サービスマネージャーを表示します。

② [環境設定] をクリックします。

③「オプション」タブをひらき、「JPEG ファイルの作成」を設定します。

④ 以下の内容を設定します。

未送信 送信 受信	JPEG ファイルを作成する項目にチェックをつけます。
解像度	作成する JPEG ファイルの解像度を選択します。 ※ 200dpi ／ 100dpi から選択できます。



●ファイル名と編集内容

ファイル名	編集内容	回転	備考
Nxxxx.jpg	50%縮小	回転なし	
Rxxxx.jpg	50%縮小	90 度回転	
Txxxx.jpg	50%縮小	180 度回転	
Lxxxx.jpg	50%縮小	270 度回転	
SNxxxx.jpg	サムネイル	回転なし	幅 75 ドット
SRxxxx.jpg	サムネイル	90 度回転	幅 75 ドット
STxxxx.jpg	サムネイル	180 度回転	幅 75 ドット
SLxxxx.jpg	サムネイル	270 度回転	幅 75 ドット

STARFAX Server SDK の起動情報を取得する

STARFAX Server SDK のサービス動作状況や FAX モデムの動作状況など、STARFAX Server SDK の起動に関する情報が設定されています。
「起動情報ファイル」を参照することで、STARFAX Server SDK の動作状況を取得できます。

●起動情報ファイルの仕様

ファイル形式	INI 形式のテキストファイル
拡張子	.inf
ファイルが存在しない場合	STARFAX Server SDK のサービスは動作していません。

●起動情報ファイルと保存するフォルダ

ファイル名	保存する場所
SfCsRun.inf	※お使いの OS によってフォルダ位置が異なります。 ＜ Windows 7 ／ Vista ／ Server 2008 ／ Server 2008 R2 ＞ C:¥Users¥Public¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥ ＜ Windows XP ／ Server 2003 ／ Server 2003 R2 ＞ C:¥Documents and Settings¥All Users¥Documents¥MEGASOFT¥STARFAX Engine¥Ctrl¥

●起動情報ファイルについて

起動情報ファイルは「①」～「⑤」のセクションに分かれ、セクションごとで確認できる情報が異なります。
確認したい項目の値を参照することで、情報を取得することができます。

▼入力例：

```
[StarFax]
Run=1
Acount=1
[Line0]
Run=0
Send=0
Receive=0
```

セクション名：半角 [ ] で囲まれています。

項目名（Run）とその値（1）を値を参照します。

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。
① STARFAX Server SDK のバージョン情報を確認します。

セクション名	項目名	説　　明
[Version]	Product=	製品サービス名を表示します。 「SfCs」固定
	Major=	メジャーバージョン
	Minor=	マイナーバージョン
	Revision=	アップデートを行った回数

② STARFAX Server SDK のサービスの動作状況を確認します。

セクション名	項目名	説　　明
[StarFax]	Run=	動作状況 0: 停止中　1: 動作中
	Acount=	アカウント数 ("1" 固定)

※英字は半角です。大文字小文字どちらでもかまいません。

③回線の動作状況や、設定した FAX モデムの情報が確認できます。

セクション名	項目名	説　　明
[Line0] 複数回線を設定している場合は[Line1][Line2].. と表示します。	Run=	動作状況 0: 停止中　1: 動作中
	Send=	送信許可設定 0: 不可　1: 許可
	Receive=	受信許可設定 0: 不可　1: 許可
	Modem=	モデム名

④送受信ログの自動削除を設定設定しているか、確認できます。

セクション名	項目名	説　　明
[AutoDel]	AutoTx=	送信ログの自動削除設定 0: 削除しない　1: 削除する
	AutoTxTime=	送信ログの削除を行うまでの日にち (日)
	AutoRx=	受信ログの自動削除設定 0: 削除しない　1: 削除する
	AutoRxTime=	受信ログ削除を行うまでの日にち (日)

⑤ STARFAX Server SDK を使用しているパソコンに関する情報を確認できます。

セクション名	項目名	説　　明
[Warning]	DiskFreeInstall=	インストールフォルダのディスク空き容量 0: 正常　1: 残り 150M 以下
	DiskFreeCtrl=	コントロールフォルダのディスク空き容量 0: 正常　1: 残り 150M 以下
	DiskFreeData=	データフォルダのディスク空き容量 0: 正常　1: 残り 150M 以下
	SendIndexNum=	送信ログの件数 0: 正常　1:8 万件以上
	RecvIndexNum=	受信ログの件数 0: 正常　1:8 万件以上
	QueIndexNum=	未送信ログの件数 0: 正常　1:8 万件以上
	DustSendIndexNum=	ごみ箱の送信ログの件数 0: 正常　1:8 万件以上
	DustRecvIndexNum=	ごみ箱の受信ログの件数 0: 正常　1:8 万件以上